

しあわせの村 野鳥物語

①



豊かな自然に恵まれ市街地にも近い「しあわせの村」は野鳥観察にもってこいの環境です。かわいい野鳥の姿や鳴き声は、私たちを癒してくれます。野鳥ウォッチングは散策や森林浴をしながら心身のリフレッシュができるシルバー向きの健康法です。今号から4回にわたって村内に生きる野鳥の生態やバードウォッチングの話をしましょう。

村では80種が見られます

日本で観察できる野鳥は約600種類（山階鳥類研究所）ですが、1997年、しあわせの村で神戸市が実施した年間調査によると、約80種の野鳥が見られたそうです。その内メジロ・ウグイス・シジュウカラ・ヒヨドリなど1年中見られる「留鳥」が37種類(46%)。ツバメ・オオルリ・キビタキなど春に台湾・フィリピンなどから渡って来て、子育てをして秋に南の国へ帰る「夏鳥」が22種(28%)。



秋にシベリアなど北の国から渡ってきて越冬して春に北の国へ帰るツグミ・ジョウビタキ・ベニマシコ・カモ類などの「冬鳥」が21種(26%)です。時に、珍しい野鳥も村へやってきます。昨年12月にヤマシギ、この2月には例年より多い約60羽のオシ

ドリ・オナガガモ・トモエガモが堂坊池に、ハチジョウツグミが芝生広場に飛来。ちょっとした話題になりました。

私たち野鳥の会は、定期的に観察するほか、村内で懸命に生きている野鳥たちを保護する活動も行っています。冬の寒さをしのぎ、春の子育てが



安心してできるように巣箱を設置したり、餌の少ない冬季に備え、ムラサキシキブ・マユミ・カキなど実のなる樹を植えたりしています。野鳥たちは、CO2を吸収する樹の葉を食べる昆虫を餌として樹を守り、木の実を食べてその種を各地にばら撒いて森を広げ、地球温暖化防止にも貢献してくれています。

この冬は“鳥インフル”という暗いニュースがありました。日本へ渡って来たカモ類が強毒性インフルエンザ菌を日本各地にばら撒いたため、多数のニワトリが犠牲になりました。伝播経路の究明はこれからですが、野鳥の死骸を見つけた時には、絶対に触らず役所へ連絡して下さい。（村では緑地運営課：TEL743-8090まで）。（野鳥と自然観察会・茅中 英一）

●4月24日（木）に探鳥会を開催します。村の芝生広場に9時半集合。2コースに分かれ春のバードウォッチングを楽しみます。＝野鳥の写真はベニマシコ⑥オシドリ⑥ジョウビタキ雌⑥。いずれも村内で堀池邦康（生17）撮影

環境未来館 運営業務を継続

こうべ環境未来館（西区）の管理・運営は引き続きあと3年間、グループわが引き受けることになり、〈魅力ある未来館づくり〉に向けて始動しました。神戸市環境局との委託契約切れに伴う入札が今年2月に行われ、わ側の入館者対策などの新提案が認められた結果、委託継続となったものです。環境未来館は16年6月に環境局から運営業務を委託され、開設しました。契約切れは18年に続き今回が2回目。

環境未来館には、年間約13,000人の来館者がありますが、ここ1、2年は減少しています。今回の応募に際しては、来館者に楽しんでもらえるよう

な数々の対策案（別項）を提示しました。こうした対策を実施して、きめ細かいサービスを提供すれば、近隣の方々や小学校、自治会関係者の来訪はきっと増えると期待しております。

[環境未来館をより魅力的にするために]①こうべ環境未来館を紹介するパンフレットのリニューアル。② PR用のCD（パワーポイント）を作成し神戸市内小学校166校に配布。③来館者に対し、見学だけではなく、草木染やペットボトル工作、ビオトープ活動など、来館者が楽しめるメニューを用意する。④ 神戸市内小学校への出前方式による環境教育の実施。⑤ 小学生の自然体験学習のため、ビオトープ（未来の泉）での「生きもの観察会」や当館周辺の「里山散策ツアー」を実施する。（環境未来館 山口 俊雄）

▽未来館の責任者は、4月から山口氏に代わり三輪匡清氏（国10）が務めます。